

本院で災害医療訓練を実施しました。

本院では、災害拠点病院及び災害派遣医療チーム(DMAT)派遣病院として、災害医療の机上訓練「エマルゴトレーニング」を1月29日(土)、医学部大講義室において実施しました。

当日は、エマルゴトレーニングの第一人者である市立堺病院の中田康城高度救急・災害医療担当部長を講師に迎え、DMAT隊員を中心に、病院長、医師、看護師、技師、事務スタッフなど総勢約100人が参加しました。



多数傷病者発生時対応シミュレーション演習を指揮する中田部長

エマルゴトレーニングとは、病院近隣で発生した大規模事故や自然災害で大勢の傷病者が来院したという想定において、傷病者役と医療従事者役のマグネット人形を用いて、ホワイトボード上に再現した災害現場、トリアージ部門、応急処置班、手術室、放射線部、ICU、病室、災害対策本部、後方搬送等における対応をシミュレーションする訓練です。

訓練は、「厳しい寒さのある日、いつもながらの外来・入院患者の対応に追われる中、救急ホットラインに“爆発事故？バス事故？”による多数の傷病者”の受け入れ要請が入った」というケースを想定して始まりました。

参加者は各担当部署に分かれ、早速ホワイトボードを囲みながら、配布された資料に記載された情報や条件を元に“いかに多くの傷病者を助けることができるか”を検討しました。「1階移動するのに2分必要」といった移動に要する時間の制約も設けるなど、本番さながらの切迫した状況に参加者の表情は真剣そのものでした。

また、傷病者対応以外にも災害対策本部として情報収集や院内外の応援スタッフの配置、マスコミや家族への情報提供などのシミュレーションも行いました。



ホワイトボード上を現場に見立てて対応を検討するスタッフ

参加者からは、「非常時には、いかに迅速、かつ的確な対応が重要であるか、また各部門・施設間の連携がいかに必要であるかを再認識した。」等の感想が寄せられるなど、災害時の対応スキルの向上とともに、災害拠点病院のスタッフとしての意識を高めることができた実り多い訓練となりました。

本院では、いつ起こるか分からない災害時においても、地域に根づく医療拠点としての使命を果たしていきます。